

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄返還交渉Ⅱ-3（対内）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2020-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/45931

対沖繩

(半北一長出版等)

万機

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

35

電信写

大政事外外務省
 務務 典房
 次次
 臣官官審審長長
 儀密文会密給

総番号(TA) 52982
 69年 11月 21日 23時 15分
 69年 11月 22日 13時 24分

主管

シ-ヨ-1
本 省 発着 米

外務大臣殿 岡田 大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ百万同ほろにおくる言は発表

第957号 平

21日。21時ウオールドルマ。アストリア。ホテルにて発表した

米に転電した。

(3)

総人電厚計
 国資長領移長
 参調折企
 参領旅移

ア 参地中東
 長 北東西
 米 参北北保
 中 参一二
 南 参西東洋
 審 西東
 欧 長

近 参審近ア
 了 次総経国万
 長 参貨航国
 経 参政技二
 長 国一理
 参 参参協規
 国 参政経科
 長 軍社専
 参 参道内外
 文 一二

27

要字 部

宛電符 總第 58618 号
昭和 44.11.24 日 時 分 發

漢

24-121

電信課長 *[Signature]* 電信案 (分類)

暗 <u>略</u> 平	第 <u>462</u> 号 (LIF)	<u>大臣</u>
大 臣	主管 <i>[Signature]</i>	起案 昭和 44年 11月 24日
政務次官	<i>[Signature]</i>	
事務次官	主任 <i>[Signature]</i>	起案者 <i>[Signature]</i> 電話番号 644 (内)
外務審議官		
官房長 <i>[Signature]</i>		

~~岸田首相~~ ~~外務省~~
 閣議決定
 報告書
 報告書

在 *[Signature]* 臨時代理
 大 公 使 宛 *[Signature]* 大臣發
 總 領 事 代 姓

電 報 在 朱 下 田, 十 二 日 所 (大 公 使 宛 總 領 事)

件 名
 總理 訪 朱 成 果 以 內 乃 外 臣 長 主 席 說 明
 牽 涉 局 長 大 河 原 氏
 1. 本 報 20 日 所 登 載 之 以 外 北 米 第 1 課 長 以 23 日 沖 繩
 12 點 文 高 魂 大 使 牽 涉 局 長 以 於 此 說 明 後 同 日
 午 後 約 1 時 向 華 北 日 外 主 席 公 邸 以 外 12 臣 長 主 席
 知 會 副 主 席 日 外 氏 余 人 正 交 之 7 今 次 外 務 省

寫 濟

24-121
561

GB-1 外務省 回覽番号 3789

の経緯と意義、及び共同声明の各項につき詳細
説明を行ない、また関係資料を手交した。

その際冒頭主席は襟を正して「よい時期により
総理及びよい外務大臣が在職され並になさぬ
努力を払われたことは、国のため沖縄のため

感謝にたえず」と述べ、「自分は個人として

政府の御苦労はよく分っているつもりだが、沖縄県民

代表としては、最大公約数的なことを公けに発言

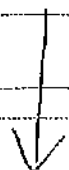
せざるをえないことをよく了承してほしい」と付言

した。^{早朝}（なお副主席によれば、22日の主席スピーチ

メントはすでに前日共同声明を見ないうちに

~~（この日政府が資料提供の共同声明テキストを提出し、~~
作っており、そのあとの一問一答に主席の真情が

吐露されている由。）



(1) 先方が持に問題としたのは、第8項の読み方で「軍前協議制度に関する米政府の立場と害する^立ことなく」と「日本政府の政策に背馳^はしないよう実施する」との関連がよく分らず、これは互に矛盾しているのではな^らずかとの疑惑が琉球政府首脳の間にあることであつたので、当方は愛知大臣の説明要旨等により、この項の意味は「米軍は返還時核兵器を撤去し、同時にすべ^きに安保条約体系のもとで保持している軍前協議の権利を再確認（対自国々内配慮上）したのみであり、互に矛盾はない旨説明をおいたことより、よく分つた」と述べていた。

(2) 二のほか先方は次の如く述べた。

(1) 5項目の質問として (A) 1972年返還は

動かぬか（動かすと答へおいた。以下カッコ内同じ）

(然り) (b) 中絶基地の「重要性, 正認性」として基地の

地盤固定化の意味が不明(否), (b)

^{共同目的の}
(b) 3ヶ条と(c) (A) 概・BS2・自由使用の是非
不明確 (b) 安価堅持 かつこれと基地固定化の

印案が一致 (c) 基地の縮小整理・合意研案等が

明記に必要 (c) 基地の縮小整理・合意研案等が

明記に必要 (c) 基地の縮小整理・合意研案等が

予ての問題であるが 復原準備段階で半歩と見

察して疎通が非合意であると述べた。

(3) 現在 ~~中絶~~ のことと ~~中絶~~ 復原準備に因り 10 項目

の ~~中絶~~ 詳細的請求書をついて 中絶の背景から今後

予想可能な採取等について解決 (おいて) 主席

は ~~中絶~~ 中絶 中絶 中絶 中絶 中絶 中絶 中絶 中絶 中絶 中絶

と述べた。 (「~~中絶~~」の地位に ついては、とては高調

大規模の予備をとり 中絶に 中絶に 中絶に 中絶に 中絶に

体的に 中絶に 中絶に 中絶に 中絶に 中絶に 中絶に

当方と検討中であり、意見ありは是非論おせはしない旨

要旨として承諾した。 (此材料は云々記者会見で執行部あり)

(4) 上述の要旨を以て環球時報及び外報小紙、これ相当正確に報道した。 2. 24日午後 ~~11時~~ 主席は記者会見、(注: 此材料)

得るに及ばず、在土の向ヶ出等後) 正行ない、⁷「本土政

府の解親正同得るに及ばず、⁷「本土政

府に及ばず、⁷「本土政

府に及ばず、⁷「本土政

府に及ばず、⁷「本土政

府に及ばず、⁷「本土政

府に及ばず、⁷「本土政

(1) 基地の整理縮小に筋力ありと。

(2) 安保の中での沖縄の重要性正合意したとの事。

島内得出来ぬ ~~事~~ こと。

(3) 概の肉題が明了な以上、B-52 Aの安保

体制の肉題が沖縄に ~~し~~ 事 ~~も~~ せ ~~ら~~ ぬ ~~事~~ こと。

朱 ~~本~~ 20 日 26 日 に 報 告 した。

(回覧番号) 外務省電信案 (分類)

電報部長 3)	機密表示 (極秘・密の朱印)	符号表示 暗 略 (平)	総第 587 号 587 号
	秘 授	合第 4775 号	昭和 44 年 11 月 24 日 23 時 32 分
		大至急・至急・普通・LTF	発電係

(※印欄内は電信課記入)

大 使 政 務 次 官 政 務 次 官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主 管 アメリカ局長 参 事 官 北米才一課長	主官局部課 (室) 名 米北1 起案 昭和44年11月24日 起案者 電話番号 米北1長
--	----------------------------------	--

係長先

大 使 臨時代理大使
在 ~~トウモロコシ~~ 総領事 代理 米北1 大臣 務 代理

電 報 在 大使 臨時代理大使
総領事 代理 米北1

件名 経理訪米成果に因り対尾良主席説明

ワシントンコ 米北1 往電 462号

電 報

(昭和四二・七一改正)

24 濟 23
字

核なし復帰に希望

屋良主席が記者会見



屋良主席

【東京十四日電】日本共産党中央委員会、屋良主席が十四日午後、記者会見で、日本共産党の核なき復帰の希望を述べた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べた。

十四日午後、屋良主席が記者会見で、日本共産党の核なき復帰の希望を述べた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べた。

屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べた。

屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べた。

過激な行動 B

52なども原因

屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べた。

屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、核なき復帰の希望を述べた。